

計算の始まりです！

楽しんでやってみましょう！！

評価額の算出方法について

1. 難しい税額計算は、課税の要件(相続人数、各人取得財産等)を入力すれば、即座に相続税の総額、配偶者の税額軽減、贈与税・外国税額控除以外の税額控除を自主計算(自動計算)し、各人の納付税額を自主計算(自動計算)します。

2. この計算をするためには遺産を時価評価する必要があり、これがまた煩雑で難しく、『はじめにお読み下さい』で、こまごまと説明しましたが、シミュレーションや概算計算をするには、それ程正確な時価評価をする必要は最初からないのではありませんか？！。

入力版の財産集計欄には、相続税評価額とおぼしき金額(例えば、土地は固定資産評価額の 1.25 倍の額、定預預金等の預金は額面額等)、所謂世間の常識とされる、『とおり相場』を採用して①の相続人名、相続財産欄に記入してください。

参考になる おおまかな 評価の仕方を次に掲げてみます。

①土地の概算値は、近隣土地の売買実例価額や固定資産評価額の 1.25 倍。

借地権等については上記の価額に 0.6～0.8 の借地権割合を乗じた額。

②家屋は固定資産評価額。貸家はその 0.7 掛け。

③立木、果樹は今買ったとしたらの価額の 0.85 掛け。

④事業用機械、農機具等は、中古として売買したとする価額。

⑤上場株式は、とりあえず相続開始の日の終値。

⑥取引所相場のない株式は同族株主以外の者(非経営者)は、2 年間平均配当 ÷ 10% か、2 年間無配のときは、2.5 円 ÷ 10% = 250 円。

同族株主の場合は、当該会社の B/S の資産を①～④の手法で概算するか、とおり相場で評価。

⑦預貯金等はとりあえず相続開始日の額面金額。

⑧家庭用財産、自動車は、④と同じ方法。

⑨書画骨董は、業者意見を聴くか、とおり相場。

⑩電話加入権は、取引価額、標準価額により評価。とおり相場は価値なし。

⑪小規模宅地、特定事業用宅地の特例があるときは、0.5～0.2 掛けで評価。

3. 以上で財産や葬式費用・債務額を入れおわったら、②税額控除額欄に該当相

続人欄に入力します。

- 4.③特殊な相続欄は、本来相続分と代襲相続分がある場合など特殊な場合のみ使用します。
- 5.④相続人数欄は必ず入力します。②税額控除額欄以外の税額控除を自動計算させる大切な入力欄です。
以上が終われば相続人等各人の相続税の納付税額が出力欄に、瞬時に自動計算・提示されます。現行法に則り、一銭の狂いありません。

もう終わりです！

ほかの人の分もやってみませんか！！